3956

ホ
4
260

生徒必携 體操歌

二十年五月改撰

金澤 同盟出版

073286-000-2

特63-476

体操歌（生徒必携）

日山豊次郎

M20

CEH-0864

3956

式
4
260

二十年五月改撰

生徒必讀體操歌

金澤

同盟出版

生徒必携體操歌明治二十年六月十日内務省交付

五十音

六十三篇

（ア）朝日光に輝くは　富士の高嶺のみ雪なり
（イ）一家山も智徳を高くして　その名を雲井に現せよ
（ウ）勇め光皆勇め光　体操場に臨みなば
ふの〳〵腕力を較べん　勇め勇め皆勇め

其二

一日休め光ば一日の　損い生涯かへらぬぞ
雨をも風をも厭はずに　かならず勉強致すべし

うたへや謠へ不知うたへ
綴りなした唱歌集

（エ）

えき無ひ事に光陰を
たゞ貧賤に苦ゐみて

（オ）

思へや思へ能く思へ
世の諺にも謂ふなれぞ

其二

をゐめや惜め己が名を
生涯消ることおらず

（カ）

學校通ひの朋輩い
忠勇孝義を基として
ぞうたへ謠へいざ謠へ

をしまぬ人は生涯を
物憂き月日を送るべし

凝ては思案に能はずと
思へやおもへ能く思へ

一度とりたる惡名は
惜めやれゐ己が名を

眞の兄弟同樣に

もくゝ末ながくする名長く

其二

語をや語をまづ語れ
英豪偉人の實傳を

（キ）

來をや來をれざ來れ
その優劣を試みん

其二

貴となり賤となる事は
彼のワシントン何人ぞ

（ク）

國も豊かに明らゝく
教の父母が培れて

たがひに睦びて交際よ
世界ゐ名を得し昔今
語をや語れまづ語れ
日々に學びし諸學科の
來れや來れいざ來れ
學ぶと學ばざるにあり
彼のニュートンは何人ぞ
治まる御代の蒼生を
芽生を育ゆる幼稚園

うさへや謠へ不知うたへ
綴りなした唱歌集

（エ）

えき無ひ事に光陰を
たゞ貧賤に苦ゐみて

（オ）

思へや思へ能く思へ
世の諺にも謂ふなれぞ

其二

をゐめや惜め己が名を
生涯消ることおらず

（カ）

學校通ひの朋輩い
忠勇孝義を基として
ゐたへ謠へいざ謠へ

をしまぬ人は生涯を
物憂き月日を送るべし

凝ては思案に能はずと
思へやおもへ能く思へ

一度とりたる惡名は
惜めやれゐ先己が名を

眞の兄弟同樣に

もく末ながくする名長く
たがひに睦び交際よ

其二

語をや語をまづ語れ
英豪偉人の實傳を

（キ）

來をや來をれざ來れ
その優劣を試みん

其二

貴となり賤となる事は
彼のワシントン何人ぞ

（ク）

國も豐かに明らかく
教の父母が培ひて

世界ゐ名を得し昔今
語をや語れまづ語れ

日々に學びし諸學科の
來れや來れいざ來れ

學ぶと學ばざるにあり
彼のニュートンは何人ぞ

治まる御代の蒼生を
芽生を育ゆる幼稚園

苦は樂の種樂はまた　其二
幼稚の時より記憶して
（ケ）
教育社會にたつ者い
惑はす惡魔を切り伏く
（コ）
あゝろを勵し身を致し
火をも水をもれそれずに
（サ）
さかもく君が大庭に
千代に八千代に彌永き

其二

苦の種となる道理を
一生忘れうしなふな
兵士は戰場ふむ如く
子弟に凱歌を揚げさせよ
そは目的のたりまでい
勉めに勉めて功と成せ
根越し竹の深みどり
千尋の影こそめでたけれ

さくらは日本の名花なり
いはるゝ程の人とゐれ
（シ）
師匠の教を能く守り
必學問進歩して

其二

忍べよ忍べ能く忍べ
皆忍耐の一ぽあり
百折不撓をもとゐにて
（ス）
進べやすゝめ諸供ゐ
あゆれば花の都あり

其二

汝も日本の名士ぞと
これぞ身の爲國のさ先
一心不亂に學びなば
名を揚げ家を興すべし
如何なる大事大業も
之を思ひて何事も
益ある事業を興すべし
學びの林ちげくとも
進めや進め諸供に

進めや進め皆進め
そも體操の術にあり

（セ）

世界一なるヒマラヤの
萬國人の耳目をば
嶺より高く名を揚げて
驚かす迄なりけでよ

其二

世界の寶と美稱す
靈をさもて貴物ならず
寶の中のさからなれ
ダイヤモンドも礦石にして
されば人こそ世中の

（ソ）

粗相麁末のいひ草と
ずいぶん言葉に氣を付て
その人柄にも係るぞ
叮嚀簡古に談ずべし

（タ）

活潑堅固の軀と爲すは
進めやそよめ皆進め
身の活潑を本とせよ
自然になりゆく物ぞかし

（チ）

さゞ荷且の遊びにも
慣ひは第二の天性と
誓へよちのへ能く誓へ
朋には信義をかくまじと
君にも忠義親ゐ孝
誓へよ誓へよく誓へ

其二

塵も積もれば山となり
少しの隙をも大切に
しづくもたまれば海となる
學べよ學べ諸共に

（ツ）

月日めぐれる一歳の
器機と知ば學ぶ子等
其疾き事と時計る
ゆめ怠たらず努むべし

其二

勉めよ勉め諸共に
其疾き事と時計る
ゆめ怠たらず努むべし
をしへの塲ゐ集ひつゝ

讀書算術書畫體操

（テ）

手柄話をなが〳〵と
汝等よろしくつゝしみて

（ト）

とし〴〵開くる大御世の
能く働きてもろ共に

（ナ）

難儀苦行と人々の
飽まで心を勵まして

（ニ）

人間萬事塞翁が
勉めてなしたる善惡は

日々學びて解るゝ

さく程はらき物はなし
自慢高慢するなかれ
厚く恩惠と身に受て
萬分一をも報ずべし

榮華の開くる基となは
雨にも風にも怠るな

馬としいへど世の中は
報ひはかならず有ものぞ

（ヌ）

ぬすみ心の起るのも
その教育の仕方にて

（子）

ねん〳〵歳々進歩する
爲す事もなく過ぎゆくは

（ノ）

遺せやのこせ己が名を
後の世までも知られなん

其二

野をも山をも踏み分て
靜けき御代には身の運動

（ハ）

生れ付なるものならず
善にも惡にも移るぞよ

あの大御代に遇ひながら
人と生れし甲斐ならず

一事一藝貫徹かば
遺せや遺せ己が名を

わが住む地理を糺しおけ
事ある時にい必要をなす

勵めよ勵め諸共にその學業を大成せ

（ヒ）

人い高きも卑しきも遊惰に其日を送りなば

（フ）

故きを温ねて新しく後世天下を賑救せよ

（ヘ）

平生心に油斷なく勤めて遊歩を程よくし

（ホ）

譽を求むる世の人の

寒にも暑にも能く堪て人の鑑とあふがれよ

さゝ運動に如はなし終には疾病を發ずべし

事々物々を發明してれぞ身の爲國のさめ

勉強なしたれ其後は身の養生に供ふへし

勉強せざれは何事ぞ

蒔ざる種は生ぬとの

（マ）

まなべや學べ體操を身を固むるの大運動

其二

學べや學べ體操を偉業を企ゝ事ならず

（ミ）

耳は總身の山彦よ時々聞ゆる其事の

（ム）

結べや結べよく結べ背き離れず義を立て

理しふぬ人はなし

啞鈴棍棒うち揮りて理にましたる術ならず

進退健康ならざれば學べや學べ體操を

よく聰明になし置きて理非得喪を擇ぶべし

水火の難儀に逼るとも結べよむそべ能く結べ

其二

むかしも今も後の世も親に孝行なる事ぞ

（メ）

明は一身の十寸鏡目々に映るる其物の

（モ）

門地系圖はむかしにてんやしき生るも德あらば

（ヤ）

陽氣發せばいと堅き精神いたらば何事か

（イ）

たゞ替らぬは君に忠盡くせよ致せよ忠行を

よく明白になし置きて善惡邪正を定むべし

今は器量を尊べば高官高位に登るべし

金石さへも透ふるべしなふざる事の有べきや

んるゝ事のなきよふに學校へよく通勤し

（ユ）

勇豪無比のナポレチンも小學の生徒にて

（エ）

英勇鼠輩と別るゝもその膽力を養ふは

（ヨ）

世と安樂に暮すとも奮發有爲の精神を

（ラ）

來年ありとて徒に心にかけて日々に教師の教をよく守る

才能非凡のコユートンも汝と替るし者ならば

さゝ膽力の有無による皆學問のちからなり

貧しき事と忘れずに怠る隙なく研くへし

遊びくらせば人々の

事業は次第に延引て

（リ）

利發に生れし其人も
西も東も知らずして

（ル）

類を集る世の慣ひ
賢哲聖智の人に馴れ

（レ）

了健定まるそを迄は
是非も辨せず罵詈は

（ロ）

論をするより學問を
無益の事に貴重なる

終に成ること無るべし
をしへの場に立ざれば
一生無學に終るべし
蒙昧社會を切り拔て
潔く世を送るべし
みだり言辭を返すみよ
暗夜のほぶてに異ならず
勵めば人にも負はせず
時間を費すこと勿れ

（ワ）

笑はれさりとて腹立な
わらひ一人を笑ふほど

（ヰ）

鄙も都もものはらぬは
まで〳〵ろを以て爲す事は

（ウ）

憂も艱きも能く堪て
忠孝全きその人は

それを種とし勉めなば
上達すべきものあるぞ
たゞ人々の眞情ぞ
至て徹らぬ處なし
君にも忠義親に孝
かならず富貴と極むべし
優等賞譽に預るは
等閑なるらぬ驗なり

（ヲ）

多くの生徒の其中に
師父の教訓子の勉強
生徒必携體操歌畢

明治二十年四月十六日出版御届
同　五月　出　版

定價三錢

石川縣平民
編輯兼出版人　日山豐次郎
石川縣金澤區尾張町五十四番地

發賣所　金澤南町　石川敬義
同　金澤尾張町　叢文堂書店
同　金澤材木町七丁目　山田信景